

一般社団法人 岩の力学連合会
 2019年度 第3回常任理事会
 議事録
 ※回数は「第2回」の誤り

日時	2020年1月31日 14:00～17:00	場所	乃木坂ビル 4F (資源・素材学会会議室)
----	------------------------	----	-----------------------

常任 理事会	理事	伊藤高敏	○	理事	西山竜朗	×	理事	芥川真一	○
	理事	坂口清敏	○	理事	藤井幸泰	×	理事	西山 哲	○
	理事	佐藤 晃	○	理事	森岡宏之	○	理事	岡田哲実	○
	理事	林 為人	○	理事	安原英明	S	理事	横尾 敦	○
	理事	下田直之	×						
	ISRM 役員	藍檀オメル	×	ILC 委員会	京谷 孝史	×	賛助会員 特別会議	奥野 哲夫	○

敬称略順不同, ○:出席, **S**:スカイプ参加, ×:欠席

配 付 資 料

資料番号	資 料	頁
資料 2019 常任 03-01	2019年度・第2回理事会 議事録(案) (191101 開催分)	1
資料 2019 常任 03-02	個人、賛助会員数報告	5
資料 2019 常任 03-03	編集委員会報告	8
資料 2019 常任 03-04	電子ジャーナル委員会活動報告	12
資料 2019 常任 03-05	賞選考委員会活動報告	14
資料 2019 常任 03-06	賛助会員特別会議 運営企画特別委員会報告	16
資料 2019 常任 03-07	ILC 研究企画委員会報告	52
資料 2019 常任 03-08	YSRM 2019 会議報告	55
資料 2019 常任 03-09	岩盤工学基礎講座の開講および参加者募集案内	60
資料 2019 常任 03-10	岩盤工学基礎講座アンケート結果	64
資料 2019 常任 01-11	MMIJ からの業務委託費改定願	70
資料 2019 常任 01-12	岩の力学連合会の資源素材学会事務局への事務委託内容の見直案および委託業務料金の見直案について	71
資料 2019 常任 01-13	H30 決算案 20190515_正味財産増減計算書	78
資料 2019 常任 01-14	H5 年 3 月臨時総会資料	79
資料 2019 常任 01-15	岩の力学連合会正会員数の推移	83
資料 2019 常任 01-16		
資料 2019 常任 01-17		

【審議事項】

1. 2019 年度・第 2 回理事会 議事録の承認（資料 2019 常任 03-01）
議事録案通り承認された。
2. 個人、賛助会員数報告（資料 2019 常任 03-02）
資料の通り 020 年 1 月 20 日までの入退会の確認がなされた。今回の報告では 10 名が会費長期未納で退会扱いとなった。これは、11 月 1 日に開催した第 2 回理事会において長期回避支払い滞納者については支払いの督促を行い、そのうえで未納であれば退会扱いとなることが認められた上での措置であることを確認した。
3. 2019 年度活動報告および次年度予算案
 - 1) 編集委員会（西山（竜）：資料 2019 常任 03-03）
資料の通り、本年度の編集委員会の活動内容、次年度の事業計画および予算案が示された。その中で、本連合会が発行する「岩の力学ニュース」について、冊子体ではなく pdf で配信することにより、現在の印刷費の約 100 万円から大幅に減額できる可能性があることが指摘された。さらに、pdf で配信のプロアットフォームは RockNet 委員会が管理していることから、将来的に RockNet 委員会と編集委員会を統合して、新たな情報発信の役割を担う委員会へ再編可能ではないかという意見があった。この件について、編集委員会委員長（西山（竜）理事）および RockNet 委員会委員長（藤井委員長）にその可能性について検討を依頼することとなった。
 - 2) 国際技術委員（安原：）
「若手技術者海外活動助成金」として次年度の予算案 20 万円が口頭で提示された。
 - 3) 電子ジャーナル委員会（西山（哲）：資料 2019 常任 03-04）
資料の通り、本年度の活動内容、次年度の活動計画および予算案が示された。ただし活動のほとんどはメールでの審議が可能なることから、委員会開催のための旅費を当初の 25 万円から 12.5 万円に減額することとなった。また、電子ジャーナルの冊子体を印刷し賛助会員に配布しているが、賛助会員の中からは pdf 等の電子ファイルのほうが便利であるという意見があった。よって、賛助会員特別会議で意見を徴収し、その上で電子ジャーナルの冊子体の在り方を議論することとした。
また、電子ジャーナルそのものの存在意義についても疑義が出された。よって、これまでの実績を確認し、その在り方を今後理事会の場で検討していくこととした。
 - 4) Rock Net 委員会（藤井：）
資料はなかったが、上記 1)のとおり、編集委員会との役割分担や委員会の再編成を含め両委員会での検討を依頼することとなった。
 - 5) 連合会賞選考委員会（坂口：資料 2019 常任 03-05）
資料の通り、本年度の活動内容、次年度の事業計画および予算案が示された。次年度以降の連合会賞受賞者に授与される賞状および盾の在り方（形式、個数など）については今後議論することとなった。
 - 6) 選挙管理委員会（下田）
次年度より活動開始することが報告された。
 - 7) 賛助会員特別会議運営企画特別委員会（奥野：資料 2019 常任 03-06、当日配布の別紙資料）
資料の通り、本年度の活動内容、次年度の事業計画および予算案が示された。

① 岩盤工学基礎講座について

昨年度実施された賛助会員向けの「岩盤工学基礎講座」については以上に好評であることが報告された。開講時期については、年度末ではなくその前に実施してほしいとの要望があった。また、この基礎講座の内容や岩盤工学に関する講義内容を、ウェブ講座のような形で閲覧できるようにしてほしいという要望が多いことが報告された。

② 委員の交代について

任期途中ではあるが、異動などにより本委員会の委員の入れ替えがあったことが報告された。正式には次の理事会で承認を得ることとなった。

③ 賛助会員の増加による連合会活動の活発化について

連合会を構成する四学会だけでなく、岩盤工学に関連する他の学会の情報についても、連合会を通して共有できるようにしてほしいという要望が多いことが報告された。

④ 委員会の常設化について

賛助会員特別会議運営企画特別委員会を、今後、連合会の中での常設委員会に位置付けるように提案予定であることが報告された。また、そのための規則の変更案なども次回以降の理事会で提案していく予定であることも報告された。

⑤ 本連合会ウェブサイト Rock Net Japan での賛助会員リストについて

RockNet Japan のウェブで、賛助会員の「(株) 演算工房」の名前が抜けていることが指摘された。早急に Rock Net 員会に修正を依頼することとした。また、賛助会員の番号が記載されていない企業もあり、これについても統一するように修正することとした。

⑥ 賛助会員数の増加策について

後に 7. で示す内容に関連して、本連合会の財政状況を改善する策として、賛助会員の会員数を増やす努力が必要であることが確認された。具体的には、理事一人一人が複数の企業に賛助会員への参加を勧誘する努力をすることを確認した。そのための資料として、本連合会の紹介、賛助会員のメリット、これまでの実績や歴史などについてまとめた資料を坂口副理事長が作成することとなった。

8) ILC 研究企画委員会（横尾：資料 2019 常任 03-07）

資料の通り、本年度の活動内容、次年度の事業計画および予算案が示された。日本学術会議は「マスタープラン」の中で、「国際リニアコライダー（ILC）」を優先度の高い「重点大型研究計画」に選ばなかったことから、今後、実現の可能性がより不透明にあった。2月以降により具体的な方針が決まることから、それに合わせて本委員会の活動も見直す予定であることが報告された。

4. YSRM 開催報告（安原：資料 2019 常任 03-08）

資料の通り、開催報告がなされた。20 の国と地域から 274 名の参加者があり、非常に盛会であったこと、また、沖縄での開催が評判が良かったことなどが報告された。

5. 岩盤工学基礎講座の開講および参加者募集案内（資料 2019 常任 03-09）

資料の通り、本年度の惨状会員向け「岩盤工学基礎講座」の開催日程、講義内容、講師について報告された。

6. 岩盤工学基礎講座アンケート結果（資料 2019 常任 03-10）

先の 3.7) 賛助会員特別会議運営企画特別委員会報告でも触れたように、非常に好評であること報告された。

7. 資源・素材学会からの事務委託費改定願いおよび JSRM の資源素材学会事務局への事務委託内容の見直しおよび委託業務料金の見直しについて（資料 2019 常任 03-11~15）

資料に基づき、資源・素材学会から事務委託費改定願いが出された件について、まず、1月9日に三役と資源・素材学会事務局との間で面談を行ったことが報告された。それに基づき、事務委託料改定願いに至った経緯、また資源・素材学会側が提示した根拠資料の説明を行い、連合会としての

対応を協議した。問題は、当初、事務委託契約を結んだ時点での想定した事務委託の量および依頼方法に比較し、現在の委託業務と本連合会から支払う委託料に乖離が生じてきたことに原因があることが報告された。よって、本連合会としては「事務委託方法の透明化・簡素化」、「事務委託料の増額」の両面での対応が必要であることが確認された。

① 事務委託方法の透明化・簡素化について

事務委託締結時以降の新規事業においては、事務委託の内容や量について事前に資源・素材学会の事務局と打ち合わせを行い、合意した内容について「覚え書き」を作成し両者納得の上で実施していくこととした。また、事務作業を依頼する場合にはできるだけまとまった形で簡素化した上で依頼することとした。

② 事務委託料の増額

資源・素材学会の意向としては、委託料の増額は是非対応してもらいたいことであることを確認済みである。本会としても、できるだけ増額案について応えられるよう努力が必要であることが確認された。そのためには、まず、本連合会の活動内容を見直し、特に電子化によって簡素化、省力化できる内容、例えば上記 3.1) で示した印刷費の削減、3.3) で示した委員会旅費の削減により費用を捻出可能性があるのを、それを具体化していくこととなった。理事会および常任理事会の開催についても、開催回数を減らし旅費を削減することが可能であり、次の理事会でその案を提示することとした。

永続的に本連合会の活動を行うための財政基盤の強化のために、先に 3.7) ⑥で示したように理事の努力により賛助会員の増加を目指すことになった。さらに、会費の額についても今後検討していくこととした。

8. 第 15 回岩の力学国内シンポジウム開催準備状況報告（当日配布別紙資料）

資料の通り、第 15 回岩の力学国内シンポジウム開催準備状況が報告された。実行委員会から、実行委員メンバーとして各学会で民間企業の方を選出して欲しいとの依頼があったが、メンバーの重複を避けるために実行委員会で企業名や人選案などを検討してもらい、それに基づき連合会として依頼する方法をとることとなった。本件については、林理事を通して楠見実行委員長（関西大学）に依頼することとなった。

本シンポジウムのウェブサイトについては、Rock Net Japan を運営しているサーバー上に作成可能かどうか、藤井 RockNet 委員会委員長に確認することとなった。

本シンポジウム開催に受けて、連合会としても予算措置を講じる必要があるので、次回の理事会で佐藤幹事長から予算案を提案することとなった。

以上